

2022年9月の行事予定表

1	木		16	金	
2	金		17	土	
3	土		18	日	礼拝式、(長寿者のお祝い)
4	日	礼拝式、聖餐式、教会役員会	19	月	
5	月		20	火	
6	火		21	水	
7	水		22	木	
8	木		23	金	
9	金		24	土	
10	土		25	日	永松牧師は今治教会に出張中です。
11	日	礼拝式	26	月	
12	月		27	火	
13	火		28	水	
14	水		29	木	
15	木		30	金	

9月お誕生・洗礼記念日の皆様、おめでとうございます。

編集後記

- ◇ 暑さ厳しく、激しい雨も時折降るとい例年にない今年の夏も少しずつ秋の気配を感じる候となりました。
- ◇ 今月は尾崎姉の永松先生ご夫妻への寄稿文。そしてD兄・Y兄の奨励要旨となりました。
- ◇ 新型コロナ対策としてインターネット礼拝を中心とした現在の教会活動となっています。9月以降も継続となる予定ですが、主にあって心を合わせて皆様とこれからの信仰生活が護られますよう祈ります。

教会月報

2022年9月

No.376

岡山ナザレン教会 月報編集委員会

長寿を祝福する神

「神を愛する者たち、つまり、ご計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということを、私たちは知っています。」新約聖書・ローマ8章28節

昨今は、人生100年時代を迎えたとと言われることが大げさではなくなりました。以前には、老後の資金に2,000万円が必要(65歳から85歳位の間、生活資金総額から年金額を引いた際、取り崩す金額を総計したもの)と言われ驚いたものでした。現在の平均寿命は男性81歳、女性も87歳と長寿の時代を生きています。元気ですごせる期間である健康寿命(男性72歳、女性74歳)が続けばいいのですが、現実はそのとばかり言えません。それぞれの人生、人は生まれる時もそうですが、死を迎える時は誰も知ることができません。それゆえ、将来の生活全般が心配となりそのための準備をするように努めるのでしょうか。

創造主なる神の御手によって創られた、と信じるキリスト者の立場は、いかなる状況でも、神の意志によって生かされるものであると考えます。生まれつき障がいを負われる方もいらっしゃるでしょう。また、キリスト者となられた星野富弘さんのように教師時代に障がいを負われ、やがて口に筆をもって、詩や絵を描かれて生き生きと歩んでおられます。人生何が起こるかはわかりません。けれどもはっきり言えることは、各自の人生を振り返る時、いつも神様がおられ助けを与え、導き、愛して下さったことを知ることができるでしょう。長寿は神の恵みです。神の愛が、お一人お一人に注がれていることを信じます。私たちの教会では80歳を超える兄弟、姉妹たちは8名おられます。礼拝に出席される方や自宅で生活される方もいらっしゃいますが、神様は一人一人のお名前を呼んで下さり、昨日も今日もまた、明日も寄り添って下さるお方です。

牧師 永松 清

永松先生 淑子先生へ S.O. 姉



私は、「美術愛好家・永松先生」を語りたいと思います。

2015年、大阪市で開催されたナザレン教団総会最終日のことです。永松先生から、ある美術館で珍しい展覧会が開催されていると情報いただきました。(実際には、私は近くにある水族館に行きました…)

ある時には、教会の方々とバイブル・アートの鑑賞で高知県一泊の旅もされました。

また、東京での休暇中、淑子先生とキャリーバックを引きながら、遠路、国立美術館を訪ねたとお聞きしたこともあります。

「私は呼吸し、感じ、苦悩し、愛する、生き生きとした人間を描くのだ…あらゆるアートは、心血を注いで創造されるべきだ。

アートとは、心の血のことだ…(原田マハ著ムック「愛のぬけがら」より)

貧困との闘いで一生を終えた画家…精神を病みながらも描き続けた画家…込められた一枚の絵の前にたずむ永松先生を想像します。

美術・芸術に造詣が深く、長い牧会から練り上げられた永松先生の説教には独特の自由な柔らかさを感じます。特に、私は、永松先生の「祈り」が好きで、自然に首が垂れます。

永松先生にも、淑子先生にも書ききれない思い出と感謝があります。お二人とご家族皆様の平安が続きますようお祈りしています。



預言者エレミヤ レンブラント
お土産にいただいたファイルです



奨励要旨 H.D.兄(ルカ福音書 22:31-34 2022.7.3)

聖書の記事で、父なる神とサタンとの遣り取りが記載されているのは、他にはヨブ記だけです。ヨブ記では、サタンの目論見が見事に潰れてしまいました。イエス様の救いの成就が近づいた時、サタンは二度と失敗を繰り返さぬよう、最も効果的な策略を考えました。それは、弟子達をイエス様から離反させることでした。

サタンはペトロの人的に弱いところを攻撃し、イエス様の為なら死んでもいいと豪語した(33・34 節)ペテロは、3度もイエス様を否定してしまったのです。悪魔は私たちの弱さを狙ってきます。

イエス様を裏切った後のペテロの後悔は、どれほど激しいものだったでしょう。ユダがイエス様を裏切り、後悔し自殺しましたが、ペトロの後悔は、それ以上であったことでしょう。しかし、ペテロは自殺には至りませんでした。何故でしょうか。

イエス様は、復活したお姿を弟子達に三度現されました。そして、ペテロが悲しくなるほどに、

「私を愛するか」と三度も問いかけます。それはペテロを深い真の悔い改めに導くためでした。ペテロは、真実な告白「主よ、あなたは何もかもご存じです。わたしがあなたを愛していることを、あなたはよく知っておられます。」へと導かれました。

そしてペンテコステ。聖霊を受けたペトロに何が起こったのでしょうか。ヨハネ 14 章 26 節「聖霊が、あなたがたにすべてのことを教え、わたしが話したことをことごとく思い起こさせてくださる。」

聖霊を受けたペテロは、イエス様の言葉を、言葉の意味をはっきりと理解することが出来たのです。

“ああ、私はイエス様の祈りによって護られた！” イエス様ご自身の祈りが、サタンの練りに練った最悪の攻撃を打ち砕き、ペトロの信仰を護ったのです。「わたしはあなたのために、信仰が無くならないように祈った。だから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。(ルカ 22 章 32 節)」

私たちは弱い者です。弱くてもいいのです。弱さを持ったまま主の前に出ましょう。

私たちは、主イエスの祈りによって護られ、私たちのとなり人を力づけるよう遣わされているのです。



奨励要旨 K.Y.兄(マルコ福音書 10:13-16 2022.7.31)

イエス様の恵みにあずかろうと人々が集まり、子供たちへの祝福を望んで連れてきました。

しかしこの人たちに弟子たちは「叱って」追い払おうとします。(13節)なぜ弟子たちは叱ったのでしょうか？ 子供を遠ざけようとして弟子たちに対して、このマルコ伝では明確に14節で「憤って」とイエス様の感情を伝えています。つまり子供たちを遠ざける弟子たちの行動を改めさせようとして御言葉を語られます。そして弟子たちに子供の姿勢そのものを手本とせよと命じられます。

15節「はっきり言っておく。子供のように神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入ることはできない。」この「子供のように」とはどういう意味か？

子供は行動も感情のままに動くことも多く人に迷惑を掛けることも多々ある。天使のように清廉潔白な存在とは言いがたい。では何をもって子供を手本にしなさいとイエス様が弟子に伝えたのでしょうか？

それはルカ福音書9章 46-48 節に繋がっています。ここで弟子たちは誰が一番偉いかと話し合っていました。そこでイエス様は子供を連れてきて「わたしの名のためにこの子供を受け入れるものはわたしを受け入れるのである。私を受け入れる者は私をおつかわしになった方を受け入れるのである。」とそして「あなたがた皆の中で最も小さい者こそ、最も偉い者である。」と語られます。

子供は問題ある行動をします。しかし一つ大人ではなかなか出来ないことを行っています。それは「親・または親に準ずる存在に対して絶対的な信頼を置いている」ということです。

幼子のように唯一無二の存在として神さまを絶対的に信頼し、自分がどのような状態でも常にその存在を忘れないように思い行動すること。これは大人になればなるほど困難です。

神さまの前で誇れることは何も無いこと。それこそが子供のようにへりくだること。

そのように反省と悔い改めをこれからも続けられるようになりたいと思います。

